



春の全国交通安全運動

4月6日から15日までの10日間、春の全国交通安全運動が実施されました。運動期間中、窪川警察署前の町道約550mの区間を「交通安全願掛けロード～in 四万十町～」と銘打ち、道路沿いに子どもたちが作成した交通安全笑舞（絵馬）などを掲示し、交通安全啓発に取り組みました。また、運動期間中には量販店駐車場での啓発活動、ドライバーサービスなどを実施し、安全運転を呼びかけました。



第18回 よってこい四万十

5月3日、「第18回よってこい四万十」が十川のこのぼり公園で開催されました。今年も、上空を約500匹のこのぼりが舞う中、ペーパークラフト、新聞バッグづくり、エアートランポリン、ゆとりの森見学バスの運行、あめご釣りなどが行われ、多くの地元・県外客でにぎわいました。



「谷干城」を学びました

5月16日、高知城歴史博物館において、町内で歴史を研究している方など55人が、戊辰戦争期の谷干城の動向を中心に講義を受けました。これは、博物館での企画展「明治元年の日本と土佐（～5/28）」において、谷干城に関する資料が展示されるのに合わせて、地域の課題解決を支援する博物館の事業で行われました。講義では、戊辰戦争における「谷干城と東北諸藩との関わり」などを展示中の資料を使い分かりやすく解説していただき、郷土の偉人の理解を深めました。



▲横山副館長の講義



▲貴重な資料を観覧

季節の風景 6月

てるてる坊主

♪てるてる坊主 てる坊主 あした天気にしておくれ



大正10年に発表され、教科書にも掲載された誰もが知っている日本の童謡です。

日本の風習の一つですが、元来は中国から入ってきたものといわれています。中国では、白い紙で頭を作り、赤い紙の服を着せて、ほうきを持たせた女の子の人形を、雨が続く日に軒下につるして晴れを祈ったそうです。ほうきを持っているのは、雨雲を掃き、晴れの気を寄せるためといえます。この風習が、古来日本に伝わり、当初は「照る照る法師」と呼ばれていたものが、「照る照る法主」になったといわれています。現在、日本でも地域によって「てるてる法師」や「てれて坊主」、「日和（ひより）坊主」などと呼ばれています。女の子から男の子に変化した理由は定かではないのですが、日照りを願う僧侶や修験者が男性であったことから、人形が頭を丸めた坊主のようであるところからと考えられています。



▲この日は中間テスト直前の学習環境づくり!

今月も町営塾「じゅうく」スタッフをご紹介します!4月から新たにスタッフに加わった早川大輝さんです。早川さんの出身は埼玉県川口市。地元の小・中・高校を卒業して、筑波大学へ進学。筑波大学では、国際総合学類という学科で、国際関係学や国際開発学を学びました。早川さんが大学に入ってから思ったことがあります。「自分は、いわゆる『学校のお勉強』という枠内では、ずっと優等生で来たけれど、これといって誇れるものが何もない。でも、大学に入ってから知った人たちは、違う!それぞれに何がしか誇れるものを持っている」そんな衝撃を受けた早川さんは、自らのこれまでの歩みを検証していく中で、自然と「教育の中心」に注目するようになったといいます。ご両親が教員だったことも影響したようです。早川さんは4年間で、卒業に必要な単位の全てと、教員過程を取得し、後は卒業論文を書いて卒業というところまで歩んできて、急に立ち止まりました。自分に「待った」をかけたのです。「それなりの卒業論文を書こうと思えば書けたと思います。でも、そんな卒業論の意味はないと思いました。教育に携わっていくという人間が、それではいけないというか...」公営塾経営会社「ファウンディングベース」の取り組みと、その考え方に共感していた早川さんは、卒業論だけを残して休業は「君にもできる!」

今月の
人オコトリ
すべての子どもたちへ
「君にもできる!」



はやかわ だい き
早川 大輝さん
(神山町)